

# 令和5年度 山口県立美術館 第3期コレクション展

1月18日(木)～3月31日(日)

## ■展示室 A 江戸時代の動物画 森派の作品から 1月18日(木)～2月14日(日)

江戸時代、とくに18世紀後半から幕末までの時期は、日本絵画の歴史で動物絵画がもっとも発展し流行した時代でした。中でも、円山応挙(1733-95)を祖とする円山派の流れを引く「森派」の画家たちはとくに動物画を得意とし、猿をはじめ鹿や狸などの親しみやすい動物の絵を多く残しました。この展示では、森周鳳(1738-1823)や森徹山(1775-1841)から森寛斎(1814-1894)にいたる森派の画家による、愛らしい動物画の数々を紹介します。

No.	作者	作品名	制作年	素材・技法
01	森寛斎	写生図巻	1865(元治2)	紙本墨画淡彩
02	森周峰	猿猴図屏風	江戸時代 19世紀	紙本着色
03	森徹山	水呑み虎図	江戸時代 19世紀	絹本墨画淡彩
04	森徹山	月下狸図	江戸時代 19世紀	絹本墨画淡彩
05	森一鳳	熊図	江戸時代 19世紀	絹本墨画淡彩
06	森一鳳	紅葉牧童図	江戸時代 19世紀	絹本墨画淡彩
07	森寛斎	葡萄栗鼠	1882	絹本墨画
08	森寛斎	萩羊図	明治時代 19世紀	絹本墨画淡彩
09	森寛斎	龍虎図屏風	1848(嘉永1)	紙本着色

## ■展示室 B 〈香月泰男とシベリア・シリーズII〉 描かれた戦争と抑留

香月泰男は1970年代になると、シベリア・シリーズの制作と並行して、外国と日本とを「鳩みたいに、行ったり帰ったり」しながら、明るい肢位債にあふれた作品を制作しました。年間企画最後の展示では、多様性に満ちた最晩年の創作活動を紹介します。

No.	作者	作品名	制作年	素材・技法
01	香月泰男	海拉爾	1972	油彩／カンヴァス
02	香月泰男	雪山	1972	油彩／カンヴァス
03	香月泰男	オリーブ畑	1972	石版／紙
04	香月泰男	アクロポリス展望	1972	石版／紙
05	香月泰男	ひなげし	1972	木版／紙
06	香月泰男	教会	1973	木版／紙
07	香月泰男	休むカヌー	1973	木版／紙
08	香月泰男	貝殻	1973	木版／紙
09	香月泰男	宿の窓から	1973	木版／紙
10	香月泰男	広場にて	1973	木版／紙
11	香月泰男	デモ	1973	油彩／カンヴァス
12	香月泰男	オレンジのある庭	1974	木版／紙
13	香月泰男	鳩のいる中庭	1974	木版／紙
14	香月泰男	海岸にて	1974	木版／紙
15	香月泰男	ルノアールの庭	1974	木版／紙
16	香月泰男	海辺にて	1974	木版／紙
17	香月泰男	渚〈ナホトカ〉	1964	油彩／カンヴァス

## ■展示室 C 生誕 150 年 永地秀太展

下松市に生まれた永地秀太（1873-1942）は、太平洋画会の創立（1902年）に深くかかわり、文展や帝展で活躍した画家です。生誕150年を迎えた永地の画業を、前年度に修復を終えた作品と新たに寄贈された作品を含めて紹介します。

No.	作者	作品名	制作年	素材・技法
01	加藤義雄	恩師之像	1940	カンヴァス／油彩
02	永地秀太	一兵卒	1904?	カンヴァス／油彩
03	永地秀太	静物	1909	カンヴァス／油彩
04	永地秀太	しぼり	1913	カンヴァス／油彩
05	永地秀太	静物	1915	カンヴァス／油彩
06	永地秀太	風景(モンティニール=ブルトンヌーの教会)	1921 頃	カンヴァス／油彩
07	永地秀太	風景(モンティニール=ブルトンヌー)	1921	カンヴァス／油彩
08	永地秀太	風景	1922	カンヴァス／油彩
09	永地秀太	壁に倚れる女	1925	カンヴァス／油彩
10	永地秀太	更紗の前	1924	カンヴァス／油彩
11	永地秀太	ポーズ	1930	カンヴァス／油彩
12	永地秀太	ギリシアの浮彫	1937	カンヴァス／油彩
13	永地秀太	静物	1925	カンヴァス／油彩
14	永地秀太	静物	1930 頃	カンヴァス／油彩
15	永地秀太	婦人像		紙／木炭
16	永地秀太	裸婦像		紙／木炭
17	永地秀太	男子裸像		紙／木炭
18	永地秀太	永地秀太資料		答案、写真、絵葉書

\* 13 は寄託品、それ以外は山口県立美術館所蔵品